



# がっこうだより

枚方市長尾西町2丁目45番1号 TEL050-7102-9176  
E-mail nishinagao-e00@city.hirakata.ed.jp  
URL https://www.city.hirakata.osaka.jp/soshiki/6-1-0-0-0\_2.html

枚方市立西長尾小学校 令和5年9月号

<西長尾小学校のめざす児童像>

1. 心豊かな子ども（自他を大切に  
する、思いやりのある子ども）
2. 深く考える子ども（自ら学び、  
考えて行動できる子ども）
3. 健康な子ども

## 人は、人によって、人へと成長します

—— 周りの人との関わりを大切に

わたしたちは影響しあって生きています。

☆枚方市立西長尾小学校  
ブログはこちら⇒



9月22日(金)の午前中、児童会が中心になって「子どもフェスティバル」が開催されました。3年生から6年生までの各学級の子もたちが、他の学年の人たちに楽しんでもらえるように学級の「出し物」を考え、自分たちで準備し、当日は自分たちが運営します。すべて自分たちで行うところに、この取り組みの価値があります。

朝の9時、代表委員の人たちが、校内放送で開会の言葉や連絡を行い、その後、スタートの合図をしました。校内のあちこちで子どもたちの歓声が響いてきます。特に1・2年生は観客として参加することで、先輩の姿に学ぶことを大きな目的の一つとしています。

すべてが終わって子どもたちが書いた振り返りの感想を見せてもらいました。その中には、たくさんの肯定的な受け止めの言葉が記されていました。「(6年生の)おねえちゃんたちがやさしかったから、わたしも、やさしいおねえちゃんみたいになりたいです」「(6年生の)あのおにいちゃんたちは、やさしいおにいちゃんだとおもいました。ぼくもあんなおにいちゃんになりたいです」と書かれたものもありました。人は人をお手本としてより良い自分をめざすようになるのだと再認識しました。自らも心して行動せねばと感じました。

人がつくり残した書物などの芸術にも、そうした影響力があります。

今回紹介するのは、山本有三 編『心に太陽を持って』(新潮文庫)です。この本は、昭和10年(1935年)10月、山本有三が編著・配本した『日本少国民文庫』全十六

巻の最初の配本として発刊されたものです。山本有三は、「今日の少年少女こそ次の時代を背負うべき大切な人たちである。(中略)この人々には、偏狭な国粹主義や反動的な思想を越えた、自由で豊かな文化のあることを、なんとかして伝えておかねばならない」(吉野源三郎著『君たちはどう生きるか』岩波文庫版あとがきより引用)と考えていました。



『心に太陽を持って』には、子どもたちに向けた逸話がたくさん紹介されています。それぞれのエピソードがほどよい量で、読みやすくわかりやすく、こんな生き方って素敵だなと思える「心にひびく、豊かな生きかた」がたくさん描かれている本です。子どもたちにはぜひ今のうちに(高学年ぐらいのうちに)読んでもらいたいです。

人として、先人たちがどのような生き方をして自分の人生を豊かなものにしようとしたのか、心の豊かさとは具体的にどのようなことをいうのか、自分なりに考え、感じるきっかけをくれることでしょう。また、社会と自分はどのように関わっているのか、自分は世界中から恩恵や影響を受けているということにも気づかせてくれます。ぜひ手に取って欲しい本の一つです。少しだけ紹介します。

本の冒頭には有名な「心に太陽を持って」という詩(フライシュレンによる詩を山本有三が訳したもの)があります。その次に、「くちびるに歌を持って」という逸話が出てきます。そこには船舶事故にあった人の話が描かれています。

沈没した船に乗っていたのは104人。すぐわれた人たちとは別に、海の上で離れ離れになった人たちが25人いました。これは、そのなかで、たった一人で、海に浮かんで助けを求めていた男性の体験談です。

海面は霧に包まれ、自分がどこへ流されているのかわからなくなり、大声で助けを呼んでも何の返事もなく、その男性はもう力が尽きかけていました。その時、遠くから女性の美しい歌声が聞こえてきました。声のするほうへ一生けんめいに泳いでいくと、なんにんかの女性が一本の大きな材木につかまってからだをささえているのでした。そのうちの一人の若いお嬢さんが、材木につかまりながら、ほがらかに歌い続けていたのです。

男性はその大きな材木につかまらせてもらい、からだはずっとらくになりました。かれは、歌を歌っていたお嬢さんにお礼を言います。

<裏面に続く>

「お嬢さん、私はあなたの歌で元気を取り戻したんです。あなたの歌が聞こえなかったら、ごえ死んでいたかもしれません。」

「まあ、そんなにおっしゃられると、困りますわ。私も聞こえないようにと思って、ただ元気をつけていただけなんですもの。」

お嬢さんは、感心している周りの人たちの会話には耳をかさないで、また高い声で歌を歌い始めます。

男性は、歌に聞き入る中で、こういう場合、これ以上の応急策はないということを感じはじめました。こういう時に情けない声を張り上げるよりも、朗らかな歌を歌った方がどんなに楽しいかわかりません。これも救助を求める、一つの新しい手段です。(以上引用、要約)

このあと、男性の提案で、救助を待つあいだ、みんなで「あること」をすることになりました。さあ、このあとは、どうなったでしょうか？ それはこの本を実際に手に取って読んでみるとわかります。

さて、子どもフェスティバルで、一人ひとりの子どもたちの輝く瞳と、生き生きとした姿を目の当たりにし、主体的に努力して取り組むことのもつエネルギーの大きさを改めて実感しました。次は運動会の取り組みが始まります。子どもたちが、自ら前へ進めるように、主体的な取り組みとなるようなかかわりを大切にしていきます。

## ☆給食当番のときはマスクを忘れずに

コロナ禍の中では、日常生活でも当たり前のようにマスクを着用し、給食当番の時もそのまま着用して活動してきました。コロナ禍以前から、当番の人は給食の衛生管理のため必ずマスクを着用して活動することになっています。

当番はすべての児童が順番に担当していきます。保護者の皆様におかれましては、今一度、子どもたちの給食当番用のエプロンや帽子、マスクをご確認いただき、マスクも必ず持たせてくださいますようお願いいたします。

また、最近、インフルエンザやコロナが重ねて流行の兆しを見せております。手洗い、うがい、必要な場面でのマスクの着用など、ご家庭でもご指導くださいますようお願いいたします。

何卒ご理解ご協力の程よろしくお願い申し上げます。



### 9月22日 子どもフェスティバル

各学級の出し物は下のとおりです。

3-1 魚釣り大会 (3種類の釣り場で何匹釣ったかを競います)

3-2 さいこうサマーしゃてき (割りばしのゴムでぼうの修理工場までありました)

4-1 ゲームコーナー (ボウリング、しゃてき、ビー玉めいろ、それぞれに人だかりができていました)

4-2 しゃてき、ワニワニパニック、ボウリング (低学年には必ず全部倒せるように優しくサービスをしてきていました)

5-1 うれしい! たのしい! タブレットゲーム (自分たちで作ったタブレット上で行うゲームでした。すべてオリジナルのゲームです)

5-2 ミッションに挑戦せよ! O×迷路 (校内のあちこちに門番の人がいて、クイズを出します。それを解きながらゴールに向かいます)

6-1 アスレチックおにごっこ (みんな元気に跳ねまわっていました。アスレチックコースもあり楽しそうでした)

6-2 アスレチックめいろ (クイズを解きながら迷路を進みます。優しく問題を出してくれていました)

